

## 第3回 ちとせ介護グランプリ実施要項

1. 目的 以下の三点を目的に実施します。
  - ① 現場スタッフのチーム力、指導力、技術力を高める
  - ② 未来の従事者に向けてのPR
  - ③ ちとせブランド（介護）の創設
2. 主催 特定非営利活動法人ちとせの介護医療連携の会 共催 千歳市
3. 後援 千歳医師会、千歳歯科医師会、札幌薬剤師会千歳支部、千歳市社会福祉協議会  
千歳市歯科衛生士会、千歳ケアマネジャーの会、北海道千歳保健所（予定）
4. 協力 西出興業株式会社 西出福祉サービス千歳
5. 日時 平成30年11月10日（土）  
12:30～13:10 受付（競技者集合時間）  
13:15～13:30 開会式  
13:45～14:35 介護技術競技  
14:50～15:40 R-1 グランプリ  
16:00～16:30 クイズ大会  
16:30～16:45 審査員最終審議・来場者様からの投票  
17:00～17:30 閉会式（表彰式）  
※ タイムスケジュールにつきましては、一部変更になる場合がございます。
6. 会場 北ガス文化ホール（千歳市民文化センター）中ホール
7. 参加資格 千歳市内の介護保険事業所、医療機関、福祉機関で勤務する者  
※ レクリエーションプレゼンテーション、介護技術ともに1名でのエントリーです。  
※ クイズ大会はそれぞれの競技参加者全員がエントリーされます。
8. 参加事業所 現在、エントリー受付中
9. 表彰等 優勝、準優勝、ちとせの介護医療連携の会会長賞、SP（模擬患者）賞、特別賞

## 第3回 ちとせ介護グランプリ 実施規則

### 1. 実施方法

#### (1) 競技内容

- ① 介護技術 食事介助の技術とコミュニケーション
- ② ちとせR-1グランプリ (レクリエーションプレゼンテーション)
- ③ クイズ大会 介護サービス、ちとせの介護医療連携の会に係るクイズ

### 2. 審査基準

『第3回 ちとせ介護グランプリ 審査員評価基準』による

### 3. 表彰

入賞事業所に対して表彰を行う。優勝、準優勝、主催者会長賞、SP（模擬患者）賞、その他特別賞を選出する。

### 4. 競技場の注意事項

- (1) 介護技術出場者の服装は、普段の業務で着用しているものとする。
- (2) 介護技術の競技は会場に準備された物品を用いて行い、物品を会場に持ち込むことはできない。
- (3) 出場者は、競技中に一切の助言や指導を受けることができない。  
また、何人も選手に対して助言指導を与えてはならない。
- (4) レクリエーションプレゼンテーションの方法について特別な定めはない。パソコンによるプレゼンテーションソフトの使用、動画の使用、レクリエーション関連の物品の持ち込みなどは可能とする。
- (5) 競技中の競技者交代はできない。また、審査員の許可なく会場を離れた場合は、失格とする。

### 5. その他

出場者の控室へ入室できるのは、出場事業所の選手のみとする。

# 第3回ちとせ介護グランプリ審査員評価基準

## 1. 競技について

### 【介護技術】

- ・ 競技順序は、ちとせの介護医療連携の会にて抽選会を行い決定する。
- ・ 競技者は所定の位置について、最初に事業所名・氏名を述べる。
- ・ 進行役の合図で競技を開始する。
- ・ 競技時間は5分以内とする。
- ・ 計時は、次の要領で行う。
  - (1) 計時は、進行役の合図から始め、所定の位置に戻ったところで止める。
  - (2) 制限時間になった段階で、途中でであっても競技は終了する。

### 【R-1 グランプリ】

- ・ プレゼンテーションの実施順序は、ちとせの介護医療連携の会にて抽選会を行い決定する。
- ・ 発表者は、所定の位置について、最初に事業所名・氏名を述べて発表を始める
- ・ 発表時間は5分以内とする。
  - (1) 計時は、事業所名・氏名を述べた後から始める。
  - (2) 制限時間になった段階で、途中でであっても発表は終了する。

## 2. 審査基準…審査は介護技術に対する評価を次の観点から評価する。

### ① 介護技術審査基準

#### 1・安全・安楽である事

- 1) 転落・転倒・強打など危険な行為は絶対に避ける。
- 2) 片麻痺がある場合は麻痺側（患側）を保護する。
- 3) 飲食の介護を行う場合は、姿勢を整えて誤嚥の予防に注意する。
  - ・ 食事を始める前に覚醒状態を確認しているか
  - ・ 食事摂取時のポジショニング（足を床に降ろしている。身体の傾きを防ぐための配慮。）
- 4) 介護の実施前後および実施中は、常に安全・安楽の確認を声に出し行う。
  - とにかく、動作一つひとつに、声掛けがあるかどうか

#### 2・自立支援

- 1) 残存能力の活用
  - 片麻痺がある場合は、声かけを行い、使える機能を生かし、自立を促しているか。

## 2) 意欲の促進

→どのように使える機能を活用するのかを説明し励まし実施後は感謝の意を表しているか。

## 3・個人の尊重

### 1) コミュニケーション

：自己紹介をし、氏名を呼びかける。

：体調をうかがう。

：常に声掛け（説明）を行う。

① これから何をおこなうなか。

② どのように残存能力を活用するのか。

③ なぜ、その方法をとるのか。

④ 今、何をしているのか。

### 2) 行うすべての介護内容の事前の説明と同意

→ 例「これから〇〇をして、△△の後に××をしたいと思いますがよろしいでしょうか」

### 3) 自己決定

→ 例「〇〇と△△、どちらにしましょうか。〇〇でよろしいでしょうか」

### 4) 接遇（言葉使い・態度）

・ 笑顔と優しさを忘れない。

・ 言葉使いは適切であり丁寧であるか。

・ 幼稚語・友達的な言葉（タメ口）・利用者を〇〇ちゃんと呼ぶことは避けているか。

## 4・効率性

1) 無駄な動作は避ける。

2) 物品の使用は必要最小限とする。

会場にある物を使用します。物品がない場合は、ない状態で介護します。

3) 制限された時間内に課題を終えます。

制限時間は5分。時間切れになったら指示に従って終了します。

## 5・利用者の健康状態の把握

1) 外見（観）の変化を察知する観察

・ 「おはようございます」と言う挨拶は、声の大小、調子等、出会いの最初の観察となる。

→ 例「〇〇さんおはようございます」

「今日お世話させていただきます〇〇です」

「昨晚はよく眠れましたか」以上で利用者の健康状態の把握を声に出して行います。

※ 審査員一人当たり競技者1名に対して最大100点の持ち点があり、項目ごとに評価する。

## ② R-1 グランプリ（レクリエーションプレゼンテーション）審査基準

### 1. 発表内容

- 1) テーマに沿った内容となっているか
- 2) 発表の構成は適切か
- 3) 話の内容はわかりやすかったか
- 4) 正確な内容を伝えていたか
- 5) 強い熱意が感じられるか

### 2. 発表資料や発表材料、発表方法

- 1) 発表資料の情報量は適切か
- 2) 図やグラフ、写真、動画、実演など工夫されているか
- 3) 発表資料などは内容を正確に理解できるものであるか

### 3. 話し方

- 1) 声の大きさや明瞭さは適切な水準であるか
- 2) 説明のスピードは適切であるか
- 3) 間の取り方は適切であるか
- 4) 発表中は聴衆を偏りなく見ていたか
- 5) 発表時間は守られていたか

### 4. 質問への対応

- 1) 質問に的確に回答できていたか
- 2) 質問に簡潔にこたえられていたか